

シミュレータを用いた 止血トレーニングの技術向上サービス

テロ対策の一環として専門家指導の下、止血トレーニングを反復可能な革新的サービスとして提供を行うために止血シミュレーションマネキンを導入した。サービスの提供後すぐ各方面からの問合せがあり、従来製品との比較や当該製品の有用性を啓発することが可能となった。



成功のポイント

本マネキンは米軍が開発に参加しているので、リアリティが高いという利点がありますが、実は輸入販売において利益を必要以上に乗せてはならないという制約もあります。こうした条件下で、トレーニングカリキュラムを作っていくのは費用負担も大きく、もの補助を利用できたからこそ実現できた事業だと思っています。それだけ社会性の高いサービスですから、できる限りみなさんのお役に立てるように頑張りたいと思います。



代表取締役 前多 宏信



実物大のリアルなマネキン

企業名

株式会社フジタ医科器械

住所 〒113-0033 東京都文京区本郷3-6-1

電話番号 03-3815-8810

URL <http://www.fujitaika.co.jp>

代表者 前多 宏信

資本金 7,900万円

従業員数 76人

企業紹介

昭和 47 年の設立より、専業医療機器メーカーとして手術用銅製小物の製造・販売を行ってきた。現場の医師の様々なニーズに応え、脳外科で使用する福島式マイクロ手術器械、外科手術時に使用されるレトラクター（開創器）、局所酸素飽和度モニターなどの製造と卸売を行っている。

こうした主業務とは別に、止血関連資機材をより効果的にトレーニングするために、米国 TraumaF/X 社から外傷マネキンを導入した。今後わが国でも五輪など国際大会のテロ対策の一環として、爆傷による四肢からの出血に対する止血トレーニングの必要性が高まっているためである。

課題と取組みの内容

テロなどの爆傷による四肢からの出血は 7 分が生命線と言われ、搬送先までの時間を待てないと言われている。わが国でも総務省消防庁によって止血帯を用いた止血処理に関する教育カリキュラム及びテキストが策定されたが、訓練は健常者同士であるために、例えば止血の強さや薬剤の投下量といったリアリティに高い壁があるため、出血シミュレータやマネキンの導入が熱望されている。TraumaF/X 社製の外傷マネキンは、米国政府と米軍が開発に協力したため、外観の質が高く、また脈動のプログラムも精巧でシミュレーションも多様であり、導入し、トレーニングサービスを開始した。



アジア人の外観もリクエストして製作



脈動に合わせて出血するので止血効果を体感可能



臨場感のある訓練が可能

導入成果

TraumaF/X 社は、ねじの 1 本から自社内で製造しているため、直せない故障はないという万全の品質保証体制を持つ。また外観は、元ハリウッドの特殊メイクを行っていたスタッフなどが担当しているため、人体の質感の再現性も高い。

今回、大学病院の救命救急の医師らと協力し、本マネキンの精度を実証した上で、代表者自ら渡米してメーカーのトレーニングを受け、日本でのサービス開始に踏み切った。救命救急が必要とされる防衛省、消防学校、救命士訓練所などでの実演も行い、従来品をはるかに超えたリアリティがあると高評価を得ており、サービスの提供が進んでいる。

今後の展望

ひとたびテロの標的となると、それを完全に防ぐのは難しいと言われる。国際社会が評価するのは、テロ発生後に、わが国としてどのように人命を救助できたのか、その準備が万全にとられていたかどうかである。この評価が低いと、将来、わが国において国際的なイベントを開催するチャンスはなくなるだろう。米国は一般市民でもこうしたトレーニングを受けられるほど進んでいる。公共の利益に供するため、当社では、現場力の向上に向けたサービスの拡充を地道に行う予定である。